

## 金子直吉から後藤新平への書簡

No.	氏名	数量	形態	内容	日付
1	金子 直吉	4	巻紙墨筆 印刷物 封筒	マクンジー工場の継続について。	(明治34)年 5月23日
2	金子 直吉	2	巻紙墨筆	再製受負契約が後藤のおかげで継続になったことへの謝辞。	明治37年 4月 2日
3	金子 直吉	2	巻紙墨筆	戸坂熊吉が横須賀海軍工廠に雇用された後急病にて死亡した経過について。	(明治)38年11月16日
4	金子 直吉	4	巻紙墨筆 10行×2 青罫紙3枚 封筒	再製樟脳製造に関する相談。	(明治)39年 2月 8日
5	金子 直吉	2	巻紙墨筆 封筒	樟脳製造改良策中の計算の訂正。	(明治)39年 2月 9日
6	金子 直吉	2	巻紙墨筆 封筒	賀田の件は御申聞の如く貸出を承諾し8万円渡し残りは本月中入用、大里製糖合同一件は左記の条件にてまとまる等。	(明治40)年 7月20日
7	金子 直吉	3	巻紙墨筆 封筒	九鉄調査の件は門司支店の岡烈へ申付け別紙が出来たので送付、九鉄創業の際土地出身の軍人・警部の古手を駅長に採用したため、駅長は甚だ高慢にて便利等につき考慮を因らざる発車時間を勝手に定めているので、仙石氏の改革で最も骨折れたのは駅長の更任であること。	(明治41)年11月21日
8	金子 直吉	3	巻紙墨筆 封筒	山陽鉄道に関する取調調査供覧の件。	(明治41)年12月 5日
9	金子 直吉	3	巻紙墨筆 封筒	辰馬の件、引請けるとすれば精細な取調べ必要だが目下日糖事件で暇無しと応答したが、度々来訪し辰馬整理放棄するの外無きを以て強願、また酒造税納付のため3、4万円の調達相談があり融通、日糖重役に自分を擬す件は、鈴木の内諾を得られるまで見合わせてほしいことなど。	(明治42)年 2月25日
10	金子 直吉	3	巻紙墨筆 封筒	坂出鳴海の釜山埋立意見書について。	(明治42)年 3月 1日
11	金子 直吉	3	巻紙墨筆 封筒	関門調査による彦島活用に関する意見書。	(明治42)年 4月22日
12	金子 直吉	3	巻紙墨筆 封筒	伊藤博文薨去につき挨拶。	(明治42)年10月28日
13	金子 直吉	3	10行×2青罫紙4枚 封筒	社外船の発達に関する意見書。	(明治44)年(8)月(28)日
14	金子 直吉	3	巻紙墨筆 封筒	日露協会会員承諾者氏名について。	(明治45)年 4月26日
15	金子 直吉	3	巻紙墨筆 封筒	日露協会寄付金2万円を日野氏宛に送付したこと。	(明治45)年 6月12日
16	金子 直吉	5	巻紙墨筆2 地図 封筒	西村が買い取った地所建物の件、軍艦商船要部の鋼材に関する件。	(大正元)年11月10日
17	金子 直吉	8	巻紙墨筆3 名刺1 封筒3	大統領府李秘書(袁の腹心)へ曹汝林(袁の密使)派遣の件と、本日の新聞にある新政党会での大隈伯の演説の件について異よりの来簡を後藤に送付する旨について。	(大正2)年 3月22日
18	金子 直吉	3	便箋墨筆9枚と1枚 封筒	参議院議長は国民党の勝利、衆議院議長選挙は袁世凱派の勝利、5国借款団成立、参議院は5国借款団を無効と議決せり、借款団成立に関する袁世凱の真意、米國は承認、袁の密使を帯び李秘書来訪など。	(大正2)年 5月10日
19	金子 直吉	10	便箋墨筆5(9枚・5枚・1枚・1枚・4枚) 新聞2(3枚・2枚) 封筒3	袁世凱の密使来邸、油碓一家袁に回付。加藤高明退京、日本の通信員来訪、今回成立の中日トラスト会社について、孫文の動向、油碓について、新聞切抜送付、進歩党総務総長林長民来訪、中国政府の公正な態度、軍人と外交官の意思疎通不十分のことなど。	(大正2)年 8月10日
20	金子 直吉	2	便箋墨筆11枚 封筒	辛亥革命の第二革命失敗後の感想。	(大正2)年(8)月(18)日
21	金子 直吉	3	巻紙墨筆 封筒	彼の部分は必ず調達するが今は活動写真の件に尽力中にて猶予ありし、日活問題救済は当店の事情が許さないので藤田と相談すべし、異より桂の回復を賀すとの来電ありこれは袁世凱が祝意を致したものの、今回の支那騒動が日本経済に与えた影響度合いは日本国内と同じであることなど。	(大正2)年 8月19日
22	金子 直吉	3	便箋墨筆2(2枚・4枚) 封筒	ドイツとベルギーのシンジケートの活動がめざましいこと、陝西に出かけていた山本と鈴木が北京に帰って来るので、彼等が何をやってたのか内偵中であること、現在当地に出張中の陝西省財政司長は袁世凱派に属しており実際は何をしに来たのか不明であることなど。	(大正2)年(8)月(30)日
23	金子 直吉	4	便箋墨筆2(3枚・3枚) 名刺 封筒	鈴木直三郎の動向、陝西省石油開発に関する件、油、農、糖三件のうち、油の件が一番進行して残りの方は進行させし、農政における提携案、日本人の米消費高が知りたいことなど。	(大正2)年(8)月(30)日
24	金子 直吉	2	便箋墨筆 封筒	山本と鈴木のは山座の資格で陝西財政司長と会見、別紙中華民国内務省訓令供覧、日本の新聞取締に関するもの。	(大正2)年(9)月(10)日
25	金子 直吉	2	便箋墨筆 封筒	自分の二旬目での活動の苦心は別紙選挙法第三条に関すること、今朝選挙、10日就任式。	(大正2)年(10)月(12)日
26	金子 直吉	1	巻紙墨筆	異昨日帰来、別紙書類は大体纏め方を記したもので、より詳しい書類は後送すること。	(大正2)年(10)月(21)日
27	金子 直吉	6	便箋墨筆4(1枚×4) 封筒	油・米・棉・糖に関する覚書要領別紙の通り、詳細書類は持参する、進歩党政務総長林長民が来訪し日本の政局について話したこと、村長民のことなど。	(大正2)年(10)月(21)日
28	金子 直吉	3	巻紙墨筆 封筒	平井晴二郎の北京行についてと、後藤の同志会絶縁は喜ばしいことなど。	(大正2)年11月 2日
29	金子 直吉	5	便箋墨筆2(6枚・1枚) メモ 印刷物 封筒	後藤と桂・立憲同志会の関係、後藤の抱負、油碓問題に対する応援、国民党解散、議員資格褫奪の理由、財政上の問題、鉄道問題、油碓問題、日本への公使は陸宗輿に決定、陸は袁世凱派の一人、海軍の油碓運動失敗、倉知事業も思うように運び居らずことなど。	(大正2)年(12)月(6)日
30	金子 直吉	3	巻紙墨筆 封筒	中山説太郎紹介、要件は露領での漁業に関しては日露協会の尽力を希望、中山は一井組の代表者。	(大正2)年12月10日
31	金子 直吉	2	便箋4枚 封筒	黄遠庸の日本視察は総統府より日本の対支方針を探るよう命じられたため、後藤を訪問する予定であること。	(大正2)年(12)月(16)日
32	金子 直吉	2	便箋3枚 封筒	日本公使陸宗輿来訪、過日黄遠庸と同じく説示、後藤男を頼みとするよう、黎之洪の北京到着の様子、倉知は南方で持てあました株を北方にて引き受けてくれと頼むことなど。	(大正2)年(12)月(18)日
33	金子 直吉	3	巻紙墨筆 封筒	星と面会し後藤に一任しておいたので、その指揮を受けるべしと伝える、要するに内田長官の決心1つで如何様にも出来る様子であるが要領を得ないので後藤より配慮してほしいこと。	(大正2)年12月26日
34	金子 直吉	3	便箋墨筆6枚 印刷物 封筒	特使来邸、油碓に関する修正書類は大總統に提出、他3案も同様、袁世凱は実業総長張謇をある点まで自由に傾使する方便考慮中、袁世凱は先生の意見書を細読して運用、中国内政情報、日中実業関係に関する情報。	(大正2)年(12)月(27)日
35	金子 直吉	10	便箋墨筆3(3枚・2枚・3枚) 印刷物3(2枚・3枚・1枚) 支那便箋墨筆1枚 封筒3	22日到着、同夜袁世凱の使来訪、米國人頻りに陝西を望む、熱河の油碓を米國に提供、熊総理と段陸軍総長との軍隊減少問題、有賀長雄の件、川崎洋行の出張員の件、葉山別荘での御訓示承、近日袁世凱大總統に面会、油碓は当方の修正意見の通り了議、米・糖・棉等々実業総長と内儀決定するなど。	(大正2)年 月 日
36	金子 直吉	2	便箋2枚 封筒	袁世凱の命により新任駐日公使陸宗輿来邸、日本の現況主として政治界・実業界についての変遷の説明を求めたので維新以来の歴史的事実を詳説し、現今の人物評では後藤のことを吹聴しておいたこと、憲法起草委員としての種々の内案の話や第一革命当時の秘密談を聞いたことなど。	(大正3)年 1月 日

37	金子 直吉	5	便箋墨筆4(3枚・5枚・1枚・4枚) 封筒	袁世凱は油鉢は外間より指を染るを許さず自分の考えにて決行しつつあり、糖・米・棉問題を農商総長に申し含めた一事について、在日本公使館一等書記官劉崇傑露国に転任、総統府部内に日本に在る亡命の徒が何か計画しているとの懸念ありなど。	(大正3)年 1月 日
38	金子 直吉	2	藁半紙片鉛筆書 鈴木商店11行罫紙2枚ペン筆 封筒	特使来訪、米国の運動活発化、1部譲歩余儀なし、海軍小田切失敗、当方計画への影響大ならず、公使の力だけでは駄目、陸公使昨日来訪。	(大正3)年(2)月(19)日
39	金子 直吉	3	巻紙墨筆 便箋3枚封筒	大日本麦酒上村来談、桜麦酒との交渉不調の件、熊内閣辞任、小田切の申込の件を米国探知、財政逼迫のため借款必要、機を見て破約の内意、日本海軍延長石油のため3000万円貸せるか、日本内閣交代と後藤の位置、若し寺内内閣となり後藤が入閣したならば実行できるなど。	(大正3)年 2月27日
40	金子 直吉	2	便箋鉛筆書1枚 封筒	○(原文のママ)と会談の内容明日送る、民国最高幹部の内幕、陝西省民の反対など。	(大正3)年(3)月(3)日
41	金子 直吉		便箋墨筆 洋紙 封筒	米スタンダードとの仮契約破壊も可能、山座公使より油田権の要求ありしも熊が認諾せず云々、日本内閣の状況との関係、大谷光演法主は社会の状況を見ることなく正義の言を聞く耳のない馬鹿である、国民党解散以後の党現状についての情報、白狼匪軍と官軍との対抗状況の概略など。	(大正3)年(3)月(5)日
42	金子 直吉		鈴木商店11行罫紙ペン筆 便箋 印刷物 封筒	北京巽氏より入電で、我が政府油坑のために3000万円用意の真偽を取調のうえ電報願いたいこと。	(大正3)年 3月 7日
43	金子 直吉	3	巻紙墨筆 電報送達紙 封筒	3000万円の件について後藤の返事を持っていること、油鉢計画も怪しき方に進みかけている様で袁世凱の方から3000万円の話をほのめかす様な、或は米国その他日本との関係を発表し米国の方より多く出金させる魂胆か、しかし日本政府が抗議を行えば巽に授けた計画が成功するとも思えることなど。	(大正3)年 3月 9日
44	金子 直吉	3	巻紙墨筆 封筒	鈴木商店と台湾総督府専売局の関係について。	(大正3)年 3月13日
45	金子 直吉	4	巻紙墨筆 鈴木商店電報受信用紙ペン筆 封筒	後藤の内報の大意を巽に文通したところ、この次の内閣改造の政変は迅速に電報してほしいとの来電あったこと。商業界は真に混乱の状態、三井も200万円以上損失。	(大正3)年 3月17日
46	金子 直吉	3	巻紙墨筆 英字新聞切抜 封筒	洪沢栄一の渡清に別紙神戸クロニクル記事送付、内閣はいよいよ辞職であるがこの際、浜口雄幸にしかるべき地位配慮を乞うこと。	(大正3)年 3月24日
47	金子 直吉	7	巻紙墨筆 便箋墨筆3(2枚・3枚・2枚)新聞切抜 封筒	巽より別紙あり、11日協話の第五点について意見を尋ねてきたので指図を乞う、小生より新内閣成立後でなければ意見決定は難しいことを申し送る、新内閣情報の迅速と確実さが巽の袁世凱に対する信頼を上下させること。	(大正3)年 3月29日
48	金子 直吉	3	巻紙墨筆 封筒	清浦内閣確定の由、国民は政争のため迷惑、東西の銀行支払停止頻々、先便浜口雄幸の件を配慮してほしいが、彼の進退は加藤総理の内諾を要すること。	(大正 3)年 3月31日
49	金子 直吉	3	便箋墨筆2(8枚・2枚) 封筒	(金子直吉宛巽来治郎書簡)日支間外交険悪、一昨夕曹汝霖の激語は南京事件と昌黎事件への苦情、日支関係円満のためには昌黎事件譲歩と孫黄放逐間接損害の放棄必要。(金子直吉宛巽来治郎書簡)司法次長来郎、章総長の農商総長兼任について、新聞と政治派閥の関係について。	(大正 3)年 4月 6日
50	金子 直吉	3	鈴木商店11行便箋ペン筆 封筒	北京巽氏より入電で、袁世凱は太后の坤徳を称し、崩御を惜しめり、昨夜の重要内議は例の宣言実行に関する事と利権問題、財政問題であること。	(大正3)年(4)月(10)日
51	金子 直吉	3	鈴木商店11行便箋ペン筆 封筒	北京巽氏より来電で、昨秋の議定と先月の内議を基礎として契約の調印が済んだが、一方の件は我が政府にとって重大であること。	(大正3)年(4)月(18)日
52	金子 直吉	3	巻紙墨筆 封筒	昨日巽来治郎に面会し、彼の件は不完全ながら兎に角調印、内容は近日翻訳送付することなど。	(大正3)年 4月24日
53	金子 直吉	3	巻紙墨筆 封筒	巽の尽力の件は大隈伯側の人には話さないように願いたいこと、後藤怒作の息子積の結婚の件で後藤へ人物問い合わせがあるから宜しく答えておいてほしいこと、大阪北浜銀行の取付収まったこと。	(大正3)年 4月27日
54	金子 直吉	4	巻紙墨筆2 封筒	北京より巽氏へ対支同盟・煙草専売についての別紙電報に付き後藤へ供覧の件、醋酸の技師を樺太へ売込の件。	(大正3)年 5月28日
55	金子 直吉	3	巻紙墨筆 封筒	巽来治郎が朝鮮総督府において卒倒して危篤に陥ったこと。	(大正3)年 6月30日
56	金子 直吉	3	巻紙墨筆 封筒	巽の病気への後藤の配慮に対する謝辞と、その後の巽の状況。	(大正3)年 7月 1日
57	金子 直吉	3	巻紙墨筆 封筒	露国より続々精製樟脳注文あり、いかなる用途に用いるものか分からず、負傷者消毒用か爆裂弾火薬原料か、もし後藤がロシアよりの派遣軍人に面会したならばその用途を聞き出し内報して欲しいこと。	(大正3)年10月13日
59	金子 直吉	2	巻紙墨筆 封筒	露国軍隊への寄付金の送付先を教えてください。	(大正3)年10月20日
60	金子 直吉	2	巻紙墨筆 封筒	支那関税問題に関する報告。	(大正6)年 4月17日
61	金子 直吉	3	巻紙墨筆 封筒	橋本喜蔵の選挙について。	(大正6)年 5月21日
62	金子 直吉	3	巻紙墨筆 封筒	高田殖産局長が神戸に着いたので、面会の節には桃園問題に尽力するように後藤より一言言って欲しいこと。	(大正6)年11月 6日
63	金子 直吉	2	12行×2朱罫紙11枚和文タイプ	ハンター商会経由で競売に落札した「テツヘ」鉱業会社問題の善処を後藤に要望。	(大正7)年(7)月 日
64	金子 直吉	2	巻紙墨筆	中国からの米の買入に関し北京政府は承諾したが省議会は反対の為め当分見込みはないこと、これは100万石、200万石という巨額の数量だからで、ともかく10万石、15万石を渡すよう要求すべきであること、支那とは米穀欠乏の際の相互供給を約束すべきであることなど。	(大正7)年 9月 2日
65	金子 直吉	3	巻紙墨筆 封筒	榎本卯平の紹介状。	(大正9)年 3月27日
66	金子 直吉	3	巻紙墨筆 封筒	小松久寿の紹介状。	(大正10)年12月16日
67	金子 直吉	3	巻紙墨筆 封筒	早川の死去により、後任の満鉄社長を後藤の配下より出したいこと。	(大正11)年10月15日
68	金子 直吉	3	巻紙墨筆 封筒	後藤の子爵叙爵の祝い。	(大正11)年11月22日
69	金子 直吉	2	36行罫線紙ペン筆 封筒	安倍孝良による「広東油性頁岩記要」(広東省の鉱山より採鉱される鉱物、鉱山の鉱量・調査・権利について略記)	(大正12)年(3)月(13)日
70	金子 直吉	2	巻紙墨筆 封筒	平高寅太郎を張作霖に紹介する文書は、鈴木商店の組織改正後の社名・役職名に改めた方が好都合であろうと思われること。	(大正12)年 3月30日
71	金子 直吉	2	巻紙墨筆 封筒	浜口氏の件は若槻氏に相談したけれども、賛成を得ず、打切る他致し方なし、久保久次はラジオストックにおける競争者で鈴木商店とは関係なし、鈴木商店大連支店長平高寅太郎を張作霖に紹介する書簡のお願いしたいこと。	(大正12)年 5月 5日
72	金子 直吉	2	巻紙墨筆 封筒	鈴木商店大連支店長平高寅太郎を張作霖に紹介する後藤書簡を藤田より拝受したこと、神戸銀行集会所での講演の引受を後藤に依頼すること。	(大正12)年 5月25日
73	金子 直吉	2	巻紙墨筆 封筒	加藤友三郎の死去により、今後の政争を憂慮しており、政党首領をして5年・10年政争を中止する主旨のもと、各方面より人材を集めた連立内閣を希望し、その首脳者には後藤ないし他の適任者を希望していること。	(大正12)年(8)月(27)日
74	金子 直吉	4	巻紙墨筆 12行×2朱罫紙和文タイプ	関東大震災にあたり救難復旧の事業の成功を切望していること。	(大正12)年 9月 3日

75	金子 直吉	4	巻紙墨筆2 封筒	本月7,8日頃は神戸もよほど不穏で、流言浮説取締令により人心はやや安定、今回の震災に対する措置で国民は政府を徳としていることなど。	(大正12)年 9月15日
76	金子 直吉	3	巻紙墨筆 封筒	シベリアと少年団に関する件を雑司ヶ谷へ話したところ、前者は外務省、後者は文部省で取調中で、シベリアの方は大問題で予知し難いが、少年団の方は大した問題でもないので強く承諾を迫るつもり。下坂の件は台湾銀行理事に含むところがある云々。	(大正14)年 7月24日
77	金子 直吉	1	巻紙	加藤高明内閣の寿命はなお相当であると予想すること、浜口蔵相は秀吉(加藤)配下の加藤清正のようなもので用意周到な人物であること、浜口面会の折に少年団補助を迫るつもりなので後藤からも文相へ懇談して欲しいことなど。	(大正14)年 8月 3日
78	金子 直吉	2	巻紙墨筆	岡崎出願の海事銀行は実質上船舶銀行で、後藤の懇請で鈴木商店ら阪神船舶業者が船舶銀行を出願した手前、これが許可されたら鈴木商店ら船舶業者の面目丸つぶれとなるので、不許可になるよう後藤の高配を得たいこと。また台湾桃園庁下の製糖業計画も鈴木商店へ許可するようお願いした云々。	(大正 )年 2月15日
79	金子 直吉	2	巻紙墨筆	民間の2会社へ入電あり、アメリカの造船産額をめぐると対立でアメリカ大統領も日本側主張の280万トン説に同意し、鉄禁輸も緩和の見込みであること。	(大正 )年11月14日
80	金子 直吉	3	巻紙墨筆 封筒	17日正午に銀行集会所で粗餐を差し上げ、その後後藤の高話を拝聴することとしたが、それについての後藤の都合の問い合わせ。	( )年 1月15日
81	金子 直吉	1	巻紙	昨日の回答文中の紡績業製品輸入税を12~29.4円としたのは、4.18~21.5円の間違いであること。	( )年 2月 7日
82	金子 直吉	3	巻紙墨筆 封筒	棕野武吉を使いに金35000円を送ること、大英断をもって事業を手控えるのは難しいが、これ以上不景気に遭遇するならばやむを得ないこと、今日の景気が回復するかどうかは近い将来に戦争が始まるかどうかにあること、吉井伯爵が囹圄の人となれば製鋼所が悪評判を受けるので、司法大臣への働きかけを頼むこと。	( )年 4月 6日
83	金子 直吉	3	巻紙墨筆 封筒	ウイスコンシン州立大学出身でアメリカで会計士をやっている柴田言寛を紹介すること、恩師の食料局長マッカーシ博士へ鉄材禁輸問題解決のため側面より尽力を願うと依頼しておいたので引見の上同問題について教示してほしいこと。	( )年 9月15日
84	金子 直吉	2	巻紙墨筆 封筒	田丸は必ず25日前に上京、「主人」にも電報で恩命の趣を伝達、保険会社がすべての準備金をもって公債を買い入れたのは政府の公債政策に貢献するため、5年10年後保険準備金が2000万円位に達して総ての保険会社が準備金で公債を買い入れるようになれば多少公債政策に貢献するはずであること。	( )年11月23日
85	金子 直吉	3	巻紙墨筆 封筒	高等学校が高松に決定したことについて、高知に決定するようことの依頼と、坂本氏の貴族院入りについての依頼。	( )年12月20日
86	金子 直吉	3	巻紙墨筆 封筒	来春の関西出張の日程が決まり次第一報して欲しいこと。	( )年12月26日
87	金子 直吉	2	巻紙墨筆	ドイツ船の修繕費はわからないが、評価が2000万円であれば買取すること、支払は正金銀行がドイツに有する預金であれば列国においても異議がないであろうことなど。	( )年12月28日
88	金子 直吉	2	巻紙墨筆 封筒	満鉄石炭会社の件は鈴木商店にとって誠に不面目のことであり、満鉄が満洲貿易に功労ある鈴木商店を除いて、三菱のような満洲に於ける新顔を石炭会社に加えたのは片手落の処分であるから何とか考慮してほしいことなど。	( )年 3月19日
89	金子 直吉	3	巻紙墨筆 封筒	西下の汽車中で台湾銀行頭取に大意だけ話した、大蔵省・日銀関係も都合良く解決、中川頭取は難局に処しては案外偉いところがあること。	( )年11月26日
90	金子 直吉	2	便箋4枚墨筆 封筒	油田の中心である陝西省延長県を始め、20余県の知事更迭は彼の方寸で、思い切ったやり方であることなど。	( )年( )月29日
91	金子 直吉	2	巻紙墨筆	過日申し上げた意見(日銀・郵貯の利引き下げ。輸出為替による海外正貨引き当てとした兌換券発行。大銀行による低利貸付)を断行しなければ、大恐慌を惹起することなど。	年 月 日
92	(金子 直吉)	2	鈴木商店用箋2枚ペン筆	大里製糖と大日本製糖との合同条件は、宮嶋より送付した書類よりずっと有利であること。	年 月 日

後藤新平から金子直吉への書簡

No.	氏名	数量	形態	内容	日付
1	金子 直吉宛	2	編纂会原稿用紙8枚ペン筆	先日巽来次郎と会談中、米国が中華民国に援助を申し込んだ事を知る。これは載絢殿下が渡米の際に、駐米公使張蔭桓と米国政府が結んだもので、米国が清国の国防方針などを援助する内容。	大正 3年 5月14日
2	金子 直吉宛	2	巻紙墨筆	ジョージ・スワンは永年日本にあって青年会事業に従事してきた 前は神戸、現在は京都・大阪の青年会のために努力している ウィルバン氏は中華民国基督教青年会から応援のために来朝し関西における青年福祉などに尽力しており、あなたからも力添えをしていただきたいとのこと。	大正14年10月 2日

鈴木商店および金子直吉に関する書簡(後藤新平宛)

No.	氏名	数量	形態	内容	日付
1	窪田 駒吉	2	巻紙墨筆 封筒	電話で話した星氏の件は、銀行の了解をとる必要があり、早速尽力したが満足な結果を得ることができず、更に金子直吉と協議したけれども、遺憾ながら同封した手紙の様な返事があり、折角後藤に口添えしてもらったのに申し訳ないこと。	( )年 4月30日
2	後藤 猛太郎	2	巻紙墨筆 封筒	杉山氏の取組みにより金子から台華殖民合資会社を林謙吉郎に渡し、同社を経営するため婚儀が終ってから渡台すること、岩崎氏から意外に信用を得たことは後藤の庇護の結果であること。	(明治38)年 5月 8日
3	榊原 政雄	2	巻紙 封筒	新渡戸との会談の模様と、鄭家屯付近の博王府の土地問題についての鈴木商店の金子直吉の動向について。	(大正7)年 8月 1日
4	榊原 政雄	2	巻紙 封筒	博王府の土地問題について金子直吉の関心を引くようにして欲しいこと。	(大正7)年 8月10日
5	長尾 半平	1	巻紙	辜顕栄の経営する糖業譲渡について金子直吉が関心を示していること、辜としては今までの投資70万円と生産高15万ピクルによる利益30万円から合計200万円以上で譲渡したい内心があるので、後藤にも情報を伝え御高見を伺いたいこと。	( )年 6月29日
6	仁井田 益太郎	2	巻紙 封筒	中村は公から鈴木商店の顧問にという依頼があり、その際鈴木商店の顧問となる以上は同時に三井の顧問であることは面白くないとの注意を受けたことを述べ24日に都市研究会の宴会で相談したいということ。	( )年 6月21日
7	野依 秀一	2	「実業之世界」用箋1枚	獄中から出所、閣下よりの励まし感謝 私と鈴木商店との噂は嘘 これからは政治で活動したいこと。	大正 9年 6月16日
8	珍田 捨巳宛	2	巻紙1枚墨筆	ロンドンで東宮には帝国の新進産業奨励上からもロンドン在住の日本人の中から有力商店の支店長を拜謁させてもらいたいとして、鈴木商店の高畑誠一を推薦。	(大正10)年(5月中頃)

鈴木商店および金子直吉に関する書簡(後藤新平所蔵第三者書簡)

No.	氏名	数量	形態	内容	日付
1	一松 謙太郎(後藤初勢・和子宛)	1	巻紙	出立の際は一方ならず御厚情をたまり感謝 18日出立、20日長崎に着き種々奔走したが骨折損の労れもうけ。28日神戸に戻り金子氏に面会したところ同氏の隣家を小生の住宅に決めたとのことで30日に急ぎ引き移った云々。	( )年10月 1日